

■一般目標 (GIO)

下顎の基本運動および咬合様式、補綴装置、有床義歯製作に使用する咬合器について、操作および原理を理解するために、咬合器と生体の関連の説明ができる。また咬合接触状態の検査や顎機能障害に対する対応についても判断できるようになる。

■到達目標 (SBOs)

- ・咬合接触について説明できる。
- ・咬合器の機構と分類を説明できる。
- ・フェイスボウの必要性を説明できる。
- ・顎関節の構造と機能を列挙できる。
- ・下顎の基本運動の種類と特徴を説明できる。

■教科書：最新歯科技工士教本 顎口腔機能学（医歯薬出版）

■参考資料：プリント配付

■授業時間：月曜日 18:00～18:45

■オフィスアワー：小峰 太 月曜日・17:00～17:45

本田 順一 月曜日・17:00～17:45

小平 晃久 月曜日・17:00～17:45

■成績評価：定期試験（80%）、平常試験（20%）として総合評価とする。平常試験後に解説を行いフィードバックする。

■注意事項：講義時に教科書と配付プリントを持参すること。

■授業方法：教科書に沿った内容のスライドとプリントを使用して講義を行う。第4、8、15回時に平常試験と解説を実施する。

■準備学習：事前に講義内容を教科書で確認しておくこと。平常試験を実施するので復習すること。

■準備学習時間：予習と復習それぞれに講義時間と同等の時間を充てること。

■実務経験：小峰 太：現在、日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅲ講座に在籍しており、生体と調和した補綴装置を製作する意義や方法について、歯科医師の立場から説明することで、理解の向上に繋がると考える。

本田 順一・小平 晃久：現在、日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅲ講座に在籍しており、顎口腔系の機能と調和した補綴装置を製作において顎運動や咬合器の調整がいかに重要であるかを歯科医師の立場から説明することで、理解の向上に繋がると考える。

■関連教科：顎口腔機能学（1年）

■予定表：

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
第1回4月12日 小平 晃久	1. 歯の接触様式（1） 1) 歯の形態と機能 2) 咬頭嵌合位における咬合接触 (教)pp. 35-38	・咬頭嵌合位における咬合接触について説明できる。
第2回4月19日 小平 晃久	1. 歯の接触様式（2） 3) 偏心位における咬合接触 (教)pp. 38-45	・偏心位における咬合接触について説明できる。
第3回4月26日 小平 晃久	1. 歯の接触様式（3） 4) 咬合干渉 (教)pp. 45-46	・咬合干渉の種類と原因について説明できる。
第4回5月10日 小平 晃久	1. 歯の接触様式 まとめ 「平常試験」と解説	・第1～3回の講義内容について理解度を確認することができる。 ・理解度の低い個所について知識を深めるこ

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
	(教)pp. 35-46	とができる。
第5回 5月17日 本田 順一	2. 咬合器 (1) 1)咬合器の使用目的 2)咬合器の機構と分類 (教)pp. 47-50	<ul style="list-style-type: none"> 咬合器の使用目的を説明できる。 咬合器の機構と分類を説明できる。
第6回 5月24日 本田 順一	2. 咬合器 (2) 3)フェイスボウトランスファー 4)咬合採得 5)咬合器の使用手順 (教)pp. 51-55	<ul style="list-style-type: none"> フェイスボウの必要性を説明できる。 咬合採得について理解できる。
第7回 5月31日 本田 順一	2. 咬合器 (3) 5)咬合器の使用手順 (教)pp. 54-63	<ul style="list-style-type: none"> 咬合器の使用手順を説明できる。
第8回 6月7日 本田 順一	2. 咬合器 (4) まとめ 「平常試験」と解説 (教)pp. 47-63	<ul style="list-style-type: none"> 第5～7回の講義内容について理解度を確認することができる。 理解度の低い箇所について知識を深めることができる。
第9回 6月14日 本田 順一	3. 咬合検査と顎機能障害 (教)pp. 65-69	<ul style="list-style-type: none"> 咬合検査法を説明できる。 顎機能障害を説明できる。
第10回 6月21日 小峰 太	4. 顎口腔系の形態 1)歯と歯列 2)顎口腔系を構成する骨 (教)pp. 1-4	<ul style="list-style-type: none"> 顎顔面の筋の形態的特徴と機能を説明できる。 顎関節の構造と機能を説明できる。
第11回 6月28日 小峰 太	4. 顎口腔系の形態 3)顎口腔系に関係する筋 4)顎関節 5)その他の軟組織 6)顎口腔系の神経支配 (教)pp. 5-11	<ul style="list-style-type: none"> 顎関節の構造と機能を列挙できる。 顎口腔の神経支配を説明できる。 顎口腔系の形態について総合的に説明できる。
第12回 7月5日 小峰 太	5. 顎口腔系の機能 1)顎口腔系とその機能 2)顎口腔系の機能と形態の維持 3)下顎運動の分析に関する基準点・基準面 4)咬合に関する平面 (教)pp. 13-18	<ul style="list-style-type: none"> 顎口腔系の機能を説明できる。 顎口腔系の機能と形態を維持する意義を概説できる。 顎口腔系の機能について総合的に説明できる。
第13回 7月12日 小峰 太	6. 下顎位 1)咬頭嵌合位 2)中心位 3)下顎安静位 4)偏心咬合位 (教)pp. 19-22	<ul style="list-style-type: none"> 下顎位の定義を説明できる。
第14回 7月19日 小平 晃久	6. 下顎運動 1)下顎運動の種類 2)下顎の基本運動 (教)pp. 23-26	<ul style="list-style-type: none"> 下顎の基本運動の種類と特徴を説明できる。 下顎の機能運動を説明できる。
第15回 7月26日 小平 晃久	4. 前期まとめ 「平常試験」と解説 (教)pp. 1-26, 35-69	<ul style="list-style-type: none"> 第1～14回の講義内容について理解度を確認することができる。 理解度の低い箇所について知識を深めるこ

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
		とができる。